とんちゃく

潮陵高校新聞局
CNS
—発行—
文責　大山 碩人

110期生、今日から潮陵生

理想の旗をかゝげて行かん

▲暁鐘の音と共に1日が始まる

本日、入学式が行われ、110期生280名がここ小樽潮陵高校に入学する。高校入試を終えてから、ほんの1ヶ月しか経っていない皆さんは、これから始まる高校生活に対する期待と不安で胸がいっぱいだろう。

「潮陵生」と聞けば大学受験一直線という印象があるかもしれないが、実際は部活や学校行事に対して、時には勉強をそっちのけに全力で取り組み、限りある高校生活を謳歌しているのが潮陵生だ。下の記事や裏面からもわかるように、とにかく潮陵生は忙しい。テストが終わったと思えば行事が入り、それが終わればまたテスト…これの繰り返しだ。しかし潮陵生は過酷な状況下においても、一切手を抜かず、潮陵祭、球技大会、体育祭などを成功させ、また驚くことに、そのほとんどが生徒主体で運営されている。

もちろん勉強も欠かさないのが真の潮陵生だ。テスト一週間前には放課後、教室に残って勉強する姿がよく見られる。授業中の集中力は言うまでもない。

何事にも全力で取り組む潮陵生の姿勢は、開校110年という長い歴史の中で潮陵生が作り上げてきた伝統ともいえるだろう。これからの潮陵高校を担う新入生には、その伝統を感じながら、楽しい学校生活を送ってほしい。

▲潮陵高校の校舎　ついに新入生も潮陵生の仲間入りだ

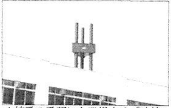
「あ、潮陵に」校歌の歌詞に見る潮陵の伝統

小樽潮陵高校は昨年度に開校110周年を迎え、道内の公立高校では3番目に古い歴史を誇るが、それと同時にこれから新入生の皆さんも歌うことになる校歌も長い歴史を持つ。

本校の校歌は大正時代初期に4期生の岡田三郎の作詞のもとに制定されて以来、大きく改正されることなく現在まで歌い継がれている。これほど長きに渡って制定当初の校歌を歌い続けている学校はそう多くない。本校の「潮陵」という名は、「あ、潮陵に」に始まるこの校歌の歌詞に由来する。また、校歌を奏でながら朝を告げる鐘は、校歌の歌詞にもある「暁鐘」だ。

新入生の皆さんは潮陵高校に「自由」という印象を持っている方も多いはずだ。その要因の1つとして「私服」が挙げられるだろう。本校における制服の私服化は、60年代後半から70年代前半にかけての全国的に学生運動が盛んだった時期に、制服廃止を求めた生徒数名が制帽を焼き捨てたことが発端だ。やや過激な気もするが、こうした「進取」の精神は校歌3番の歌詞「理想の旗をかゝげて行かん」にも現れているとも解釈できるほか、その精神は生徒主体で行われる本校の行事の中や学習への姿勢現在も垣間見ることができる。

これから先の学校生活の節々で、校歌の歌詞を思い返してみるのもいいだろう。


▲校歌の歌詞にも登場する「暁鐘」

▲私服化前、制服姿の潮陵生

勉強だけが潮陵じゃない！

ぜひ部活動に!!

現在、潮陵高校の部活動は運動系22、文化系10、外局4、同好会7、チアリーディング特別委員会で構成されており、計44もの部活動が存在している。新入生のみなさんには潮陵は勉強一本の学校のように感じられるかもしれない。だが、潮陵生の部活動加入率は90%を超えており、日々部活動に打ち込む熱心な生徒が多く、勉強と部活動の両方に力を入れている。

運動系の部活動は、グラウンドや体育館などでそれぞれ活動し、主に5月から6月にかけて行われる高体連小樽支部大会、全道大会をはじめとする数多くの大会に参加し、健闘している。

文化系の部活動は、秋に行われる高文連大会に参加し、賞を獲得する部も多く見られる。また、各部、校内展示や、市民会館での演奏会なども行っているので、ぜひ足を運んでみてほしい。

チアリーディング特別委員会（通称チア部）は、潮陵祭や球技大会などのオープニングの際に見事なパフォーマンスを披露するなど、学校行事の盛り上げにも一役買っている。

普段の生活の中に部活動を加えてみると、より有意義な高校生活を送ることができるかもしれない。今一度、部活動について考えてみてほしい。

またこの先、今月末の部局編成に向けて、部活動の体験期間が設けられる。この期間で積極的に多くの部活動を覗いてみてはいかがだろうか。きっと興味のある部活動に出会えるはずだ。

▲正々堂々相手に挑む柔道部

▲仲間と勝利を目指す女子バスケ部

「進取」の姿勢で臨む潮陵の学び

潮陵で忘れてはならないのは「勉強」だ。まず潮陵では、1年間に定期考査が4回、数学プレテストが3回実施される。これらは成績に関わる、特に大事なテストであり、1週間前には教室に残って友達と勉強する風景が見られる。なかにはプリントなどを作り、教師さながらに勉強を教える生徒も存在するが、分からない部分を質問する為に、先生を探して、学校をさまよい歩く生徒が現れるのもこの時期だ。

その他に夏休み・冬休み明けの実力考査、全国模試など、数多くのテストを受けることが、潮陵生として必要不可欠だ。

普段の学校生活でも、潮陵生が、勉強に対して真摯に取り組んでいることが日常的である。例えば、ほぼ毎朝8時20分から英単語や漢字の小テストが実施されるが、小テストであっても合格点に届かない生徒は、当たり前に追試がある。その為、多くの潮陵生は8時10分までに登校しテストに備え、自習している。

また、潮陵生が日々使う教科書の量は膨大であり、潮陵生は裏廊下の個人ロッカーに教科書を置いて、授業前に取りにいく。言うまでもなく、授業中は先生の話を真剣に聞いている。

部活動や行事との両立も大変だろうが、皆さんにはぜひ、潮陵生として学校の授業や教材はもちろん、放課後の講習などを大いに活用して、積極的に勉強に取り組んでほしい。自ら進んで新しいことを学び取る、つまり「進取」の姿勢が潮陵生の勉強スタイルだ。

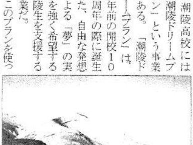
▲ロッカーへ教科書を取りに行く生徒たち

「潮陵ドリームプラン」で夢を叶えよう

潮陵高校には「潮陵ドリームプラン」という事業がある。「潮陵ドリームプラン」は、10年前の開校100周年の際に誕生した、自由な発想による「夢」の実現を強く希望する潮陵生を支援する事業だ。

このプランを使った98期生の日下稜さんは、2年生の夏に極地のグリーンランドへ渡り、イヌイットと共に原始的な生活を送るという夢をかなえた。北見工大へ進学後、日下さんは第52次南極地域観測隊として南極での研究を経験したほか、現在も大学院生として、世界各地で雪氷学の研究を続けられている。

日下さん以降「潮陵ドリームプラン」を使った生徒はまだいない。かなえたい夢への強い思いのある人は思い切って検討してみるのもいいだろう。また、今はない人でも、これからの日々の中で夢を見つけたときにはこのプランのことを思い出してほしい。


▲日下さんが訪れたシオラパルク村

潮見平

春になると桜が咲き、夏になるとセミが鳴き始め、秋になると木の葉が色づき、冬になると雪が景色を真っ白にする。そして、また春になり・・・▼厳しい寒さが続き、雪が解ける兆しも無かった今冬も、4月に入り少しずつ気温が上がり、雪もみるみる解け始めた。そんな「白冬」とでも名付けたくなる冬から季節はようやく春へと向かうが、北海道の桜は5月までなかなか咲かず、桜色の春となるのはまだまだ遠い▼桜が咲くより一足早く、新入生が新しい風と共に、ここ潮陵に今日入学した。たくさんの夢や希望を胸に抱きながら、新入生は高校生活を送るのだろうか▼よく私たちの年代を「青春」と言う。「青春」とは本来、陰陽五行説で春の異称となっており、現在の意味で使われるようになったのは、若い年代が夢や希望に満ち溢れていることから「青春」を人生の春にたとえたものだからだ▼年を取る中で段々と夢を実現していくが、より現実を実感し、希望は薄れていってしまい、いつまでも「青春」と言い続けるには限界がある。季節と同様、人生の春もまた移り変わっていく▼1度しかない人生の春「青春」に満開の桜を添えられるように力の限り謳歌していこう。

潮陵高校はテストが多いが、それと同じくらいに行事も盛りだくさんだ。
　ここでは、本校の年間行事予定と、その魅力を紹介する。

こんなに多いの!?
これが学校生活を彩る行事たちだ!!

いきなりの宿泊研修 そして、対面式

　ご存知かもしれないが、1年生の皆さん方は入学して早々、2泊3日の夕張への宿泊研修へ出発することとなる。代名詞が『ひまわり』とも呼ばれるその研修では、これから学ぶであろう高校の勉強に触れる他、クラス対抗のレクリエーションで団結力が試される。この研修を通じて、最初のうちは知っている人としか話さず、何かと静まり返っていた状態から、一気にクラス全体が打ち解けて賑やかになってくるはずだ。ちなみに、なぜ『ひまわり』と呼ばれるのかは、到着してからのお楽しみだ。

　研修から戻った1年生を次に待ち受けるのは、先輩方との対面式だ。堅苦しい名前だが、実際は全くそんなことはないので、安心してほしい。2・3年生が熱烈に歓迎してくれる。その式典が終われば、いよいよ潮陵高校での本格的な学校生活が始まる。

▲レクに奮闘する1年生

優勝をねらえ!! 球技大会

　潮陵の球技大会は、6月下旬と3月の卒業式後に、夏季球技大会と冬季球技大会として2回行われる。

　夏季球技大会は、バスケやバレー、卓球を体育館や記念館で行い、ソフトボールやサッカーをグラウンドで行う。この球技大会は、1年生にとって初めて行う学級対抗の学校行事であるが、昨年度の女子サッカーで1Aが優勝したように、1年生でも優勝をねらえる。また、この球技大会で、すぐ後に行われる潮陵祭に向け、クラスの団結力が高まる。

　冬季球技大会は、一昨年度に史上初となるフットサルが行われ、引き続き昨年度も行われた。この球技大会は年度最後の学校行事であり、各クラスが熱気に溢れ、3年生が卒業して出場しないため、どのクラスにも総合優勝の可能性がある。

　球技大会で盛り上がり、学校生活を一層輝かせよう。

▲決勝戦、優勝をねらいプレーする選手

いとをかし 見学旅行

　2年生の10月には見学旅行で京都へ赴く。学年全体で京都の名立たる名所を回るほか、クラス別研修、班別研修も行われる。世界遺産などの名所を回るところ、伝統工芸や和菓子作りを体験するところなど、各クラス、班ごとにその場所は違えど、皆、京都を思う存分満喫する。中には、班別研修では大阪や滋賀といった、近隣の府県に足を伸ばすところも少なくない。

　また、クラスメイトと宿で迎える夜の楽しさは言うまでもない。

▲見学先へ向かう2年生

編集後記

　こんにちは！新聞局です!!今回は写真部に潮陵祭の写真や、登校中の生徒の写真を提供してもらいました。ご協力ありがとうございます！新聞局員募集中です！興味のある人は3階新聞局室まで気軽に来てください！

CNSスタッフ

3C　大山　碩人
3B　大宮　真
3A　長谷川鎮摩
3D　高橋　和希
2F　海老名光希
2G　中根　杏菜

4月
・1学期始業式、入学式
・1年生宿泊研修
・対面式

5月
・数学プレ考査
・開校記念日（15日）

6月
・1学期考査
・遠足
・球技大会

7月
・潮陵祭
・進研模試7月
・数学プレ考査
・1学期終業式

8月
・2学期始業式
・実力テスト
・体育祭

9月
・2学期中間考査

10月
・2年生見学旅行

11月
・進研模試11月
・2学期期末考査

12月
・終業式

1月
・始業式
・実力テスト
・進研模試1月

2月

3月
・学年末考査
・卒業式
・球技大会
・終業式

いざ、焼肉へ 遠足

　6月に行われる遠足では、各学年ごとにそれぞれ別のコースを歩く。この頃はすでに気温も高く、坂道の続くルートを長距離歩くことになり、歩く生徒の頬には汗も見られるが、普段はあまり歩かないような道を歩くことで、今まで知らなかった新たな発見があるかもしれない。ただし、自然の中を歩くことが多いので、道路脇のウルシには要注意だ。

　また、目的地へ到着後にクラスごとで行われる焼肉では、新しいクラスメイトとの交流もより深まるだろう。

▲目的地に向かう、生徒達

ビッグイベント!! 潮陵祭

　7月に行われる潮陵生最大のイベント、潮陵祭。しかし、その準備は実にその1ヶ月前から始まっている。最大の難関は何をするのかを決めることだ。映画、食堂、お化け屋敷、縁日など、様々なジャンルのものから1つに絞るのは本当に難しい。

　また、仮装パレードの準備も行わなければならないので、大変忙しくなる。その中で、時には意見が衝突することが多々あるし、部活のある生徒との調整も難しくなっていく。買い出しに行ったり、放課後に臨海公園で仮装パレードのダンス練習をする必要があるからだ。

　しかし、そうした困難を乗り越えて、潮陵祭当日を迎えた頃には、きっとクラスは1つにまとまり、皆が団結しているだろう。その今までの苦労が報われる喜びに浸りながら、純粋に潮陵祭を楽しんでもらいたい。

▲ダンスのフィニッシュは決めポーズ

今年は晴れるか!? 体育祭

　8月に行われる体育祭は明治37年から続く、大変歴史の長い行事である。

　当初の体育祭には「600ヤード数學」などといった、今となっては内容不詳のユニークな競技が行われていたが、その点は現在も変わらず、クラス対抗の障害物競走や、部活動対抗でそれぞれ部を象徴するものを持ったり、衣装を着たりして走る「潮陵リレー」や騎馬戦などが行われる。

　これまでの歴史の中で、体育祭は雨に見舞われることが多いが、果たして今年はどうなるだろうか。

▲炎天下の中、勝利を目指す

笑いと涙の 卒業式

　卒業式と聞けば厳粛な雰囲気の中の感動的な別れを想像するだろうが、潮陵の卒業式にはそういった空気の中に明るい雰囲気がある。

　昨年度の卒業証書授与の場面では数人の生徒が校長先生との記念撮影や、服を脱いで一発ギャグを披露するなど、卒業生の笑い声が印象的だった。

　式の後も生徒玄関で、パフォーマンスを披露し、再び生徒を笑わせる卒業生もいたが、先輩への感謝の気持ちを伝えようと、在校生でにぎわう。

　潮陵の卒業式は門出というよりも生徒が学校行事の一つとして作りあげ、楽しんでいる空気がある。

▲式中、盛り上がる卒業生